

旧原家住宅表門・旧原家住宅稻荷社の
国登録有形文化財(建造物)の登録について

1 旧原家住宅表門・旧原家住宅稲荷社の概要

- (1) 名称 旧原家住宅表門・旧原家住宅稲荷社
- (2) 所在地 中原区小杉陣屋町
- (3) 所有者 個人
- (4) 建築年代 表門：明治中期～後期
稲荷社：明治32年頃
- (5) 員数 各1棟
- (6) 構造 表門：木造、瓦葺、間口2.7m
稲荷社：木造平屋建、銅板葺、建築面積1.0㎡
- (7) 経緯 教育委員会では、所有者及び文化庁等と調整を行い、平成31年2月に文化庁に意見具申を行った。

2 旧原家住宅表門・旧原家住宅稲荷社の評価

旧原家住宅表門（以下、「表門」という。）及び旧原家住宅稲荷社（以下、「稲荷社」という。）は中原区小杉陣屋町の中原街道沿いに所在している。所有者は現在十二代目に及ぶ有力な旧家で、豪農・大地主として地域社会に寄与してきた。

明治44年に上棟した主屋は、平成元年に日本民家園へ移築保存され、川崎市重要歴史記念物に指定されている。主屋上棟時期に存在が確認できる表門・稲荷社は、敷地内整備に伴い若干の移動・改修はあるものの敷地内に残存し、現在に至っている。周辺環境は、原家屋敷地の歴史的景観を継承したマンションとして整備され、表門を中心とする屋敷南部は「陣屋門プラザ」として地域に公開された広場となっている。

表門は、簡素な構成ながら、大地主の表構えにふさわしい堂々とした規模と総檜造りの贅沢な普請が注目される薬医門である。木部にほぼ当初材を留めている点と旧形式が判明する点は重要で、表門を中心とする屋敷地が周囲に公開されている点も地域に親しまれた文化遺産として注目される。稲荷社は、小規模ながら、意匠性に富む2重基壇上に建つ総檜製の一間社流造で、豪華かつ精巧な細工が施され、技巧の高さが注目される。古くから覆屋に安置されていたことにより、ほぼ建築当初の形式を留めている。近代における大地主層の屋敷神の様相を伝えるものとして貴重な存在である。

3 登録のスケジュール

令和元年7月19日 国の文化審議会文化財分科会の審議・議決、国登録有形文化財（建造物）の登録を文部科学大臣に答申

答申後、官報告示をもって正式に登録される予定（時期未定）



旧原家住宅表門 正面外観



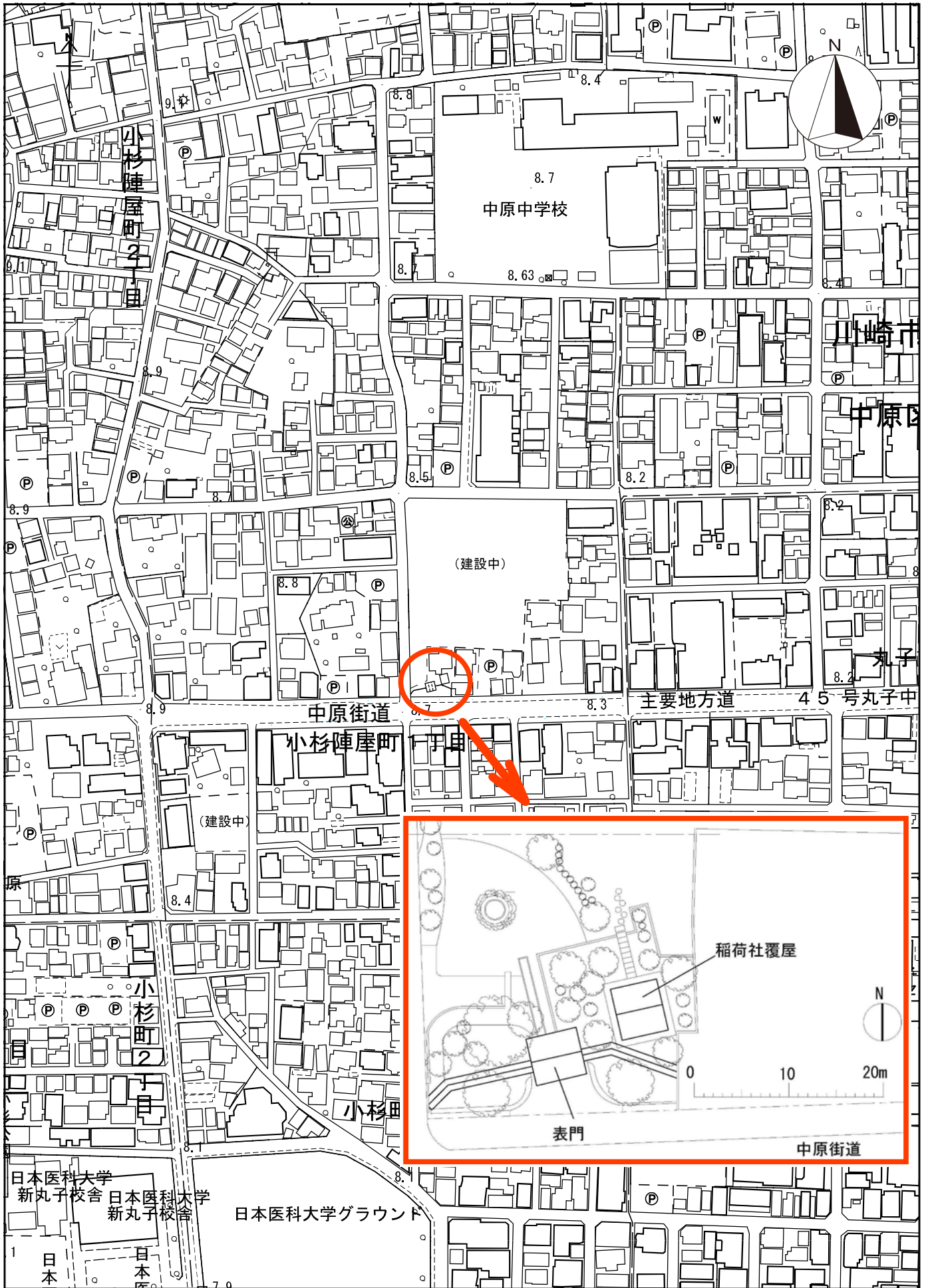
旧原家住宅表門 正面東から



旧原家住宅稲荷社 覆屋正側面全景



旧原家住宅稲荷社 正面全景



100 m
1:2,500